

1	学校教育目標
技術革新やものづくりを支える将来の専門的職業人の育成及び社会に有為な職業人の育成を実現するため、次の重点目標を設定する。	
① 生徒の進路希望や特性に応じた教育の推進	
② 旺盛な気力、強靱な身体、豊かな人間性を備えた逞しい技術者の育成	
③ 正しい職業観や勤労観、創造性や勤労意欲に富む専門的職業人の育成	

2	現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)
【学校運営】昨年度は新型コロナウイルス感染症により、行事の大幅な縮小が余儀なくされた状態で様々な行事を行った。今年度は学校創立100周年の年となる。この100周年を契機に学校の活性化と広報活動につなげていきたい。また、入学志願者について向上しつつあるが一部学科において定員割れが発生しており、行事や地域との連携、ボランティア活動など平時に戻しながら「下工ブランド」を向上させることで志願者の増加につなげていきたい。	
【学習指導】普段の家庭学習の取組については、生徒の意識や学習時間の不足について課題が残った。授業以外の個人指導や補習を継続するとともに、授業改善や家庭学習支援の具体的な手立てを示すことで、生徒の学習意欲の向上や家庭学習時間の増加を図りたい。また、昨年度に導入された一人一台端末の有効な活用方法を研究・検討し、生徒の学習意欲の向上と確かな学力の定着を図りたい。	
【生徒指導】生徒の自己指導能力の育成を目標とし、面談等をととして生徒理解に努めたが、問題行動件数は減少に至っていない。また些細なものも含めいじめと認知された事案も数件発生した。何れの事案についてもSNSによるトラブルが原因となっており、ネット上でのトラブル回避や生徒間のコミュニケーション力を高めるための指導について、外部機関等との連携を図りながら未然防止を含めた対策を講じていきたい。	
【進路指導】コロナ禍で求人数の減少や大学入試の対応が危惧されたが、昨年度の3年生については概ね希望どおりの進路が決定した。就職試験では一部の企業で、オンライン面接が実施され今後も拡大する可能性もあることから、対応できる環境の整備や、面接指導の充実を図ってきたい。また、大学や高専編入希望者に対し、十分な情報提供や受験対策についての指導を充実させ、引き続き、高専編入希望者の合格を目指したい。	
【健康安全教育】健康診断結果による治癒率の更なる向上を目指し、保健体育課、学級担任、部活動顧問、保護者が連携し生徒自身が健康管理に対して適切な生活習慣や行動をとることで、治癒率100%を目指したい。また、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症予防	
【特色づくり】100周年を機会に学校のHPを充実させ、これまで以上に学校行事や生徒の活動を掲載することで、学校の特色や良さをアピールしてきたい。また、本年度より他の工業高校に先駆けてドローン実習を導入し、既存の取組と合わせて、地域との連携も深めていきたい。	
【業務改善】教職員の意識改革や「下松工OSD」の浸透、効率的な部活動運営により、時間外業務時間の大幅な減少など働き方改革が進行している。引き続き業務分担の適正化を図りながら、働きやすい職場環境の構築に努めたい。	

3	本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題
1	重点努力目標・・・地域産業を担う人材の育成 『凡事徹底』
(1) 【学習指導】基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得	
・学習意欲の向上と学習習慣の確立、ICTを活用した授業改善	
・多彩なカリキュラムによるキャリア教育の充実	
・外部人材活用による技能の向上と資格取得指導の充実	
(2) 【生徒指導等】人間力の向上	
・百周年を迎え、下松工生の誇りの醸成	
・自己肯定感、自己有用感、自己指導能力の育成	
・意気高うして穢れなく、自ら治めて己に克つ	
(3) 【校務分掌・その他】教職員の協働体制による組織力の向上	
・各分掌や各学科、各学年の目標管理による共通理解と協働実践	
・コミスクを活かした諸課題の解決への協働と外部評価を生かした学校改善	
2	チャレンジ目標 「皆勤(遅刻・欠席0)7割以上」 「ステップテスト平均点8割以上」

4 自己評価						5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成度診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務部	・保護者との信頼関係の確立 ・地域との連携教育の実践推進	・学校ホームページのタイムリーな更新により、学校からの情報発信に努める。 ・学校開放日の設定や、地域の行事等へ積極的に参加する。	H P の更新回数 4 : 年 5 0 回以上 3 : 年 4 0 回以上 2 : 年 3 0 回以上 1 : 年 2 0 回以上	2	・ホームページについては、適時更新を行った。コロナの関係で、行事が実施できずに更新ができなかったことがある。 ・100周年で同窓会からの寄付により、ホームページを新しくして、より閲覧しやすい環境を準備している。	コロナ禍で諸行事・創立100周年記念行事への多様な対応を評価する。修学旅行や各種行事が中止や制限されたことから、今後の生徒の思い出づくりやモチベーションの向上など願いたい。 現行のホームページ(HP)は検索性もよくわかりやすい構成であったが、新しいHPもスマートフォン等にも対応し、色合いもよく見やすいものとなっている。HPの更新が大切であるので、組織体制をしっかりと整えていただき、今後の伝統校の訴求力発信に期待する。	A
	学習習慣の確立と基礎学力の向上	・授業を大切に、家庭学習に取り組むよう指導する。まずは、検査期間中はしっかりと学習に取り組むよう、家庭学習時間調査や検査発表中の学習計画表配付などにより、学習習慣の確立を図る。	検査期間の授業以外の学習時間の1日あたりの平均が、 4 : 3 時間以上 3 : 2 時間以上 2 : 1 時間以上 1 : 1 時間未満	2	学習時間の平均値は、1年110分、2年105分、3年82分であった。目標としていた2時間に各学年とも届いていない。特に3年生においては、進路が決定した2学期以降に学習時間が減る傾向が顕著である。昨年度に比べると学習時間は増加しているため、生徒の学習意欲が向上するよう引き続き取り組みたい。	コロナ禍で家庭にいる時間は多くなってきたと思われる。生徒の一定数は意欲的にしっかりと取り組んでいると思われるが、目標の学習時間2時間に向けて学習への取組を進めてほしい。	B
教務部	学習意欲の向上	・ICTを活用したり授業評価アンケートを有効利用するなどして、授業改善に取り組む、生徒の学習意欲の向上を図る。 ・教員同士がお互いの授業を参観することにより授業改善を図る。	公開授業(研究授業)の実施回数が、 4 : 1 2 回以上 3 : 8 回以上 2 : 4 回以上 1 : 4 回未満	2	1月21日までの公開授業の回数は7回であり、各科・各教科1回以上の公開授業を行うことは届いていない。 ICTの活用ということでは、様々な授業で、タブレットやプロジェクトを利用した授業やグループ学習、アンケート、自宅学習用の課題等に利用され始めている。 ICT利用の有効性等を見極め、さらなる活用を検討したい。	授業方法の工夫や変更など対応が大変だったと考えられる。Withコロナ、Afterコロナを考えながらICTの更なる活用を期待している。特に自学自習への活用と定着にはICTは有効だと考えられるので、利用を促してほしい。	B
	自己指導能力の育成、自己有用感、自己肯定感をもたせ、百周年に向けて下工生としての誇りの醸成	・ホームルーム等における適切な役割分担と、活躍の場の設定を行う。 ・面談等を通して生徒理解を深める。 ・あたりまえ向上委員会と協力し、生徒の資質向上を目指す。	生活アンケート結果において「学校に誇り」、「自分のことが好き」の割合が 4 : 7 割以上 3 : 5 割以上 2 : 3 割以上 1 : 3 割以下	3	・コロナウィルスの関係で、年度前半は思うような活動ができなかったが、100周年記念行事や体育祭・文化祭等では責任感を持って活動していた。 ・年三回の面談を行い生徒理解に努めた。	創立100周年記念式典の運営に主体的に携わる生徒に好感を持った。100周年を機に学校への誇りの醸成をもっと進めてほしい。	A
生徒部	開発的生徒指導によるいじめ未然防止	・いじめに対する体制づくりを強化する。 ・いじめアンケートの内容を見直し、早期発見に努める。 ・いじめのとりえ方や認知について教職員の共通理解を図る。	4 : いじめ防止基本方針の見直しを行い、研修会を実施した。 3 : いじめ防止基本方針の見直しを行い、職員や生徒・保護者に周知した。 2 : いじめ防止基本方針の見直しを行った。 1 : いじめ防止基本方針の見直しを行っていない。	3	・年間3回のいじめアンケートや、担任による面談を通して、いじめの未然防止、早期発見に努めた。 ・いじめ事案については、教育相談係やスクールカウンセラーと連携し、迅速に対応した。 ・学校ホームページにいじめ防止基本方針を掲載し、学校外にも周知した。	新型コロナウイルスへの感染者、濃厚接触者などがいじめの対象とならないよう配慮してほしい。 また、引き続きいじめの未然防止に向けた体制の強化も図っていただきたい。	A
	教育相談(特別支援)体制の充実	・担任からの情報をもとに気になる生徒を早めに把握し、関係教員と連携して面談やケース会議等を行う。 ・SCとの面談を仲介し専門的な助言を得られるようにする。	4 : 面談や情報共有が十分に行われ、生徒理解・指導に役立った。 3 : 一応の取り組みが出来、ある程度成果があった。 2 : 面談や情報共有はあまり出来ず、状況把握が不十分 1 : 面談や情報共有が全く出来なかった。	3	・担任やアンケートからあがった情報を教育相談、生徒から相談があった事案など、SCを中心とした関係教員で共有し、ケース会議を積極的に行い、組織的な対応をすることができた。 ・SCによる教職員研修を行い、生徒支援のための資質向上に努めた。	コロナ禍で我慢する場面も多くストレスを抱え他人にあたることも多々あるのではないと思われる。スクールカウンセラーや教職員の適切かつ迅速な対応は評価できる。	A

保健体育	体力の向上	・ 2000m持久走を実施することにより、持久力耐力をつける。	4 : 自己ベストを3回更新した生徒が60%いた。 3 : 自己ベストを3回更新した生徒が50%いた。 2 : 自己ベストを3回更新した生徒が40%いた。 1 : 自己ベストを3回更新した生徒が30%いた。	3	毎回記録をとることにより、生徒に見える化し、特に1・2年生については更新できた。3年生の3学期以降については、難しい面は残る。	運動機会の減少、及び、近年の体力の減退は大きい。今後も個人差を踏まえ基礎体力作りに取り組み、体力の向上を目指していただきたい。	A
	心身の健康の自己管理	・ 治療率の向上を目指す。 ・ 保健だよりを発行し、心身の健康管理ができるように啓発する。 ・ 他の分掌や学年・保護者等と連携を心がけ、保健指導の充実を図る。	4 : 治療率が60%以上 3 : " 50%以上 2 : " 40%以上 1 : " 30%以上	3	担任等や部活動顧問等と連携したり、保健だよりで生徒や家庭に啓発したりして、受診勧奨を積極的にを行い、昨年度より治療率が上昇した。 * 治療者率64.2% : 1年55.0%、2年59.8%、3年78.8% * 疾患別 : 視力1.0未満70.8%、眼疾患72.7%、耳鼻科疾患58.3%、う歯54.4%、歯石46.4%	昨年度より治療率の向上は評価できる。心身の健康維持の観点からも早期発見、更なる治療率の向上を望む。 保健室が生徒の心のより所となっている。また、保健だよりの定期的な発行による持続的な啓発と保護者との情報の共有化を評価する。	A
進路指導	生徒の個性、能力、希望に応じた適切な就職指導の実施	・ キャリアライフやLHR、ガイダンスを利用し、個々の特性や適性を理解させ、企業情報の提供を行う。 ・ 積極的に個人面談や三者懇談を行い、意識を高め、希望する就職を実現させる。	4 : 1次試験の合格率が95%以上 3 : 1次試験の合格率が90%以上 2 : 1次試験の合格率が85%以上 1 : 1次試験の合格率が80%未満	4	達成はできたが、基本的にどの企業も人手不足であり、求人数が多いことが影響したと思われる。	就職も早期に100%決定しており、県内就職率も県目標の85%に対して87%に達していることはよい。 求人数の減少を危惧していたが求人数はとも多く、本校教育への信頼に基づくものであり評価したい。生徒の希望する就職先に合格するように今後も指導を継続していただきたい。	A
	生徒の個性、能力、希望に応じた適切な進学指導の実施	・ 自らが希望進学先を明確にできるように、個人面談、三者懇談、進学説明会などで適切な情報を提供する。 ・ 進学課外などを実施することで、希望の進学先に進める能力を高める。	4 : 希望進学先への決定が100% 3 : 希望進学先への決定が90%以上 2 : 希望進学先への決定が80%以上 1 : 希望進学先への決定が70%未満	3	進学希望の生徒は進路変更の者も含め全員、希望の進学先に合格を果たした。1年次より進学の目的を明確にし計画的に学習を進めるよう指導を継続したい。	9割以上の希望進学先への進学を評価したい。今後も計画的な進路指導をお願いしたい。	A
工業	資格取得指導の充実	・ コロナ禍ではあるが、臨機応変に日程を調整し、資格検定に向けての補講を実施していきたい。	4 : ジュニアマイスター2500点以上 3 : ジュニアマイスター2200点以上 2 : ジュニアマイスター1900点以上 1 : ジュニアマイスター1900点未満	4	・ 現在、2746点であり、2月に実施される検定もあるので、年度末には更に得点が伸びるものとみられる。	資格取得の実績の高さは先生方の補習への取組、各種調整の賜と考え、評価したい。 今後も更なる取得向上と指導をお願いしたい。	A
	教職員の指導力向上	・ 各種指導者講習会に参加することにより教職員の指導力向上を計る。	4 : 3種類以上の講習会に参加した。 3 : 2種類の講習会に参加した。 2 : 1種類の講習会に参加した。 1 : 1度も講習会に参加しなかった。	4	・ 3種類の講習会に延べ10名の教員が参加し指導力の向上に努めた。	教職員の講習会への参加数の多さを評価する。	A

1 年 部	基本的な生活習慣の定着	・「あたりまえのことがあたりまえにできる」ことを基本に、「時間を守る（5分前行動）」「決まりを守る」「挨拶応答」がしっかりとできるように指導する。	4：皆勤が65%以上 3：皆勤が55%以上 2：皆勤が45%以上 1：皆勤が45%未満	3	2学期末時点で皆勤率は58.6%である。全体的には基本的な生活習慣は身に付きつつあるが、新型コロナウイルスなどの影響により登校できなかったり、保健室へ行く生徒もいるため、そのような生徒には継続的な心のケアが必要である。	全国的に不登校傾向の生徒が増加している。要因は様々だが、コロナの影響で学校行事等が制限され、生徒同士のコミュニケーションが減っていることも要因の1つだと考えられる。生徒の心のケアに注意してほしい。	B
	基礎学力の向上	・日々の授業を大切にしよう指導するとともに、資格試験取得を奨励・支援する。 ・家庭学習の時間が増すように指導する教科書類はすべて持ち帰らせる。	4：ステップテスト平均8割以上 3：ステップテスト平均7割以上 2：ステップテスト平均6割以上 1：ステップテスト6割未満	3	第6回終了時点で学年平均は35.0点（50点満点）である。基礎学力については身につつつあるが、さらなる向上が求められる。	1年次の学習習慣の定着は、非常に大切なので習慣化しよう指導を続けてほしい。	B
2 年 部	基本的な生活習慣の定着	・「あたりまえのことがあたりまえにできる」ことを基本に、「時間を守る（5分前行動）」「決まりを守る」「挨拶応答」がしっかりとできるように指導する。	4：皆勤が70%以上 3：皆勤が65%以上 2：皆勤が60%以上 1：皆勤が60%未満	3	コロナ過で、通常よりも欠席者数が多い年度となり、皆勤率の向上が望めなかった。基本的な生活習慣は大半の生徒は身に付いていると思われる。	「あたりまえをあたりまえに」「挨拶応答」など生徒・保護者・教職員が重要性を共感できるキーワードで共有化しており、更なる向上に努めてほしい。	B
	基礎学力の向上	・日々の授業を大切にしよう指導するとともに、資格試験取得を奨励・支援する。 ・進路選択の意識を高め、家庭学習の定着を促す。	4：ステップテスト平均点8割以上 3：ステップテスト平均点7割以上 2：ステップテスト平均点6割以上 1：ステップテスト平均点6割未満	3	平均点が8割以上のクラスもあり、基礎学力の定着がみられる。資格取得に意欲を持つ者も増え、将来の進路に向けて着実に成長できている。	中だるみをできるだけ防ぐような指導をお願いしたい。 基礎学力の定着がある程度できていることは、進路指導などを通じた生徒の進路意識の向上の表れだと評価する。	A
3 年 部	希望進路の実現	・個人面談や個別指導を充実させるとともに、進路選択に関わる情報提供の充実を図る	4：希望に添った進路情報の提供が十分出来た。 3：希望に添った進路情報の提供が出来た。 2：希望に添った進路情報の提供があまり出来なかった。 1：希望に添った進路情報の提供がまったく出来なかった。	4	保護者による学校評価アンケートの「進路指導は適切に計画・指導されている」の質問があった。これに対して肯定的な回答の割合が8割を超えていた。来年度も3年生の希望進路実現に向けて支援していく。	計画的な面談や適切な情報提供による進路指導が保護者の高い評価につながっている。今後も保護者と連携をとりながら希望する進路に向けて指導を継続していただきたい。	A
	基礎学力の定着	・希望進路実現のため、自主学習の定着を促す。 ・自己有用感につながるように資格取得を奨励・支援する。	4：ステップテスト平均点8割以上 3：ステップテスト平均点7割以上 2：ステップテスト平均点6割以上 1：ステップテスト平均点5割以上	2	平均点6割以上が2クラス、平均点5割以上が2クラスだった。8割以上のクラスがなく、自主学習の定着の大切さを身に付けさせる指導をしている。	就職に向けて高い意識を持たせ、合格後の意識の低下を防ぐような指導をお願いする。	B

業務改善	日常的な業務		4：教職員アンケートの分掌業務の組織的な取組における肯定的回答が60%以上。		教職員による学校評価で「分掌業務が組織的に行われており、成果を発揮している。」という項目において肯定的回答が59%と、低いながらも昨年度より7%向上しており、業務を組織的に取り組み、協力してできつつある。しかし、未だに個人に業務負担が偏っている面も否めないもので、OJTや後継者づくりと共に分掌の配置を見直したい。	課題意識、責任感の差異などから生じる業務量の偏り、組織としての方向性の認識、共有の難しさは仕事運営上の共通の課題だと認識している。地道な取組をお願いしたい。また、代休や年休等の積極的な利用で教職員の負担軽減を図っていただきたい。	B
	相互に信頼できる円滑な職場環境づくり	・全教員の元気とやる気の生まれる職場の人間関係づくり（ラインケア）を進める。 ・業務のペアワーク化を進め、作業効率の向上や人材育成の推進業務分担適正化を図る。	3：教職員アンケートの分掌業務の組織的な取組における肯定的回答が50%以上。 2：教職員アンケートの分掌業務の組織的な取組における肯定的回答が昨年並み。 1：教職員アンケートの分掌業務の組織的な取組における肯定的回答が昨年を下回った。	3			
	学校の組織等	・外部講師による校内研修を実施する。 ・校外研修等の復伝講習を行う。	4：計画した研修や復伝を概ね実施した。 3：計画した研修や復伝を6割程度実施した。 2：計画した研修や復伝を3割程度を実施した。 1：計画した研修や復伝はほとんど実施できなかった。	3	・新型コロナウイルス感染症の影響で、外部講師による研修等をリモートなどで実施した。また、綱紀保持研修や復伝講習なども実施した。初任者研修等を活用し、授業参観等による授業改善に向けた取組はできなかった。特に、ICTの活用による授業形態などよい研修となったが、授業参観者の増加が課題である。	コロナ禍で今までにない取組が必要となってきた。リモートなどしっかりと取り入れると共に、扱い方の研修などで学んでほしい。	B
	教職員の資質能力向上と人材育成	・全教員が年間1回以上研究授業を参観する。 ・若手教員を主任等へ登用する。					
	勤務状況	・時間外在校等時間縮減を呼びかける。 ・「下松EOSD」を推進する。 ・年休や代休の取得を呼びかける。 ・ノー残業デーの年5回設定と実施。	4：年間の時間外在校等時間月45時間以内の職員の割合が80%以上 3：年間の時間外在校等時間月45時間以内の職員の割合が60%以上 2：年間の時間外在校等時間月45時間以内の職員の割合が40%以上 1：年間の時間外在校等時間月45時間以内の職員の割合が20%以上	4	・教職員一人ひとりの働き方改革に対する意識の向上や、効率的な部活動運営の推進により、時間外在校等時間月45時間以内の職員の割合の平均は、1月末時点で87.0%と良好であった。また、平均の時間外在校等時間も25.3時間であった。4月当初、休校などで部活動が中止となった影響もあるが、今後もノー残業デーや年休・代休の積極的な取得を促していきたい。	コロナへの対応や多様な生徒への対応、ICTへの対応など様々なことに対応していかないとけないが、無理の無いように進めてほしい。 時間外勤務の状況や休みの取りやすい環境作りなどは評価できる。	A
	時間外在校等時間の状況を掌握し、月45時間以内の時間外在校時間の徹底						

6 学校評価総括（取組の成果と課題）

今年度の総括として、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、学校運営や学校行事計画の見直しを余儀なくされた。全体的に学校評価アンケートを含めよいと評価をいただいた。特に、①創立100周年記念行事に伴う生徒会等のPR活動と取組状況②全体的に問題行動が少なく落ち着いた学校生活の状況③3年生の早期の100%の就職、進学決定④志願者の増加による定員割れの回避などは、評価いただいた。

来年度に向けて、創立100周年記念を機に生徒の誇りと帰属意識を今後も高め、同窓会や地域と連携しながら地元地域に根ざした学校となるようにまた、地域に貢献できる学校をめざしたい。更に、志願者の増加に向けた取組について、今年度の実践を見直し工夫しながら更なる増加に取り組んでいきたい。

1 重点努力目標・・・地域産業を担う人材の育成 「凡事徹底」

（1）【学習指導】基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得

基礎学力の向上に向け、生徒の意識改革や教員の授業改善に努め、欠点数は昨年度と今年は少数に抑えられている。また、家庭学習時間も昨年度に比べて、目標の1日当たり2時間には達していないものの、全体平均が昨年度85分から本年度99分と微増ではあるが増加傾向にある。これまで実施しているステップテストや資格取得による個別指導も引き続き実施していきたい。ICTを活用した授業改善の取組も徐々に進んできており、機器の様々な活用方法を各教員が模索している。教員間のICT活用方法を互いに教え合い、情報共有も行われている。

（2）【生徒指導】人間力の向上

コロナ禍の中、感染症対策を講じた上で生徒会を中心に学校行事を実施できたことは成果と言える。今後も生徒会活動を活発化させ、生徒主役の学校運営を行って行きたい。一方で、生徒の問題行動については昨年度と比較し減少傾向にあるものの、スマートフォンに関する事案が多数を占めている。

また、複雑な家庭環境や生育歴に起因する不適応が発生している。問題行動の未然防止に努めるとともに、保護者やSCと連携しながら、生徒の安心・安全な学校生活の為の環境整備や対応を行って行きたい。

（3）【校務分掌・その他】教職員の協同体制による組織力の向上

学校行事や生徒指導など全教職員で対応する意識は徐々に向上している。しかし、どうしても業務分担任一部の教員に負担が偏ったり、時期的に仕事が重なってしまう期間が来てしまう。今後も、仕事分担の適正化を図ると共に、教職員が協働で物事に取り組む意識の醸成を更に進めていきたい。

また、ジョブローテーションを行うことで多くの教職員が多様な役割を担えるような組織作りを行って行きたい。

2 チャレンジ目標 「皆勤(遅刻・欠席0) 7割以上」「ステップテスト平均点8割以上」

皆勤については、新型コロナウイルス感染症のため、発熱等の風邪症状のある生徒はすべて出席停止になったが、同時に欠席に対する意識や皆勤への意欲も低下し、皆勤率が低下していることは憂慮すべき事態である。今後、言葉かけや意識付けなどの注意喚起を意欲的に行って行きたい。ステップテストの得点については、家庭学習時間の不足が結果に反映しているため、学力向上を含め継続した指導が必要である。

7 次年度への改善策

【学校運営】今年度、学校創立百周年を迎えた。本校の伝統やこれまでの実績に誇りを持たせ、自己有用感や自己肯定感を高める教育を行ってきた。ものづくりのまち下松を支える人材を育成し、地元の発展や活性化に貢献できる学校づくりをめざしたい。

【学習指導】家庭学習の取組については、生徒の意識や学習時間の不足について課題が残った。昨年度からの増加傾向が来年度も続いていくよう、授業以外の個人指導や補習を継続するとともに、授業改善や家庭学習支援の具体的な手立てを示すことで、生徒の学習意欲の向上や家庭学習時間の増加を図りたい。また、タブレット端末等のICTを活用し、新たな学び方を浸透させ、生徒の学習意欲の喚起に繋げていきたい。

【生徒指導】生徒の自己指導能力の育成を目標とし、問題行動の未然防止やいじめ対策を行ってきた。問題行動件数は昨年度と比較し減少傾向にあるが、根絶には至っていない。また些細なものも含めいじめと認知された事案も発生した。人間関係づくりの重要性を再確認した。今年度は新型コロナウイルスの関係で、新1年生のAFPYを年度当初に実施することができなかった。次年度も、生徒のコミュニケーション能力の向上を図っていききたい。

【進路指導】コロナ禍で求人数の減少や大学入試の対応が危惧されたが、本年度も3年生については概ね希望どおりの進路が決定した。就職試験では一部の企業で、オンライン面接が実施され今後も拡大する可能性もあることから、対応できる環境の整備や、面接指導の充実を図っていききたい。また、大学や高専編入希望者に対し、十分な情報提供や受験対策についての指導を充実させ、引き続き、高専編入希望者の合格を目指したい。

【健康安全教育】新型コロナウイルス感染症の流行により、1学期間を通して健康診断を実施したが、治療率が昨年度より上昇した。今後も関係者（教職員・家庭）と連携しながら受診勧奨し、心身の健康を自己管理できるよう働きかけていきたい。また、新しい学校の生活様式を徹底し、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症予防対策に取り組むことで、安心して登校できる環境を確保したい。

【特色づくり】百周年を機に、学校HPをリニューアルすることができた。今年度志願者倍率が1.2倍と大幅な志願者増を達成することができた。今後も学校行事や生徒の様子の掲載を頻繁に更新し、学校の良さや特色をアピールすることで、今後の志願者の確保に努めたい。

また、異校種間の学校との交流を推進し、開かれた学校づくりをめざしていききたい。

【業務改善】教職員の意識改革、効率的な部活動運営により、時間外在校等時間の減少など働き方改革が進行している。引き続き業務分担の適正化を図りながら、働きやすい職場環境の構築に努めたい。